

「サポートカード」を利用したい方へ

- 医療機関で診察を受ける時、初めての場所で不安を感じる時、自分の苦手なことを伝えたい時などにこのカードを提示しましょう。
- 必ずしも希望通りにサポートを受けられないかもしれませんが、サポートを受けたら、相手に感謝の気持ちを伝えましょう。

「サポートカード」を提示された方へ

- 表面ではわからないかもしれませんが、内心は困っていたり、ちょっとした手助けでスムーズにできることがあります。
- 無理せず、出来る範囲でのご協力をお願いします。



記載の仕方 (例・・・人によってそれぞれのため自由にご記入ください)

知っておいてほしいこと

- 診察時に予告なく口を開けられると大声をだしたりすることがあります。触れる前に声掛けをお願いします。
- 病院で診察室に入るのを嫌がり、その場で動かなくなってしまうがちです。まず診察室で何をするのか、いつ終わるのかできれば、目に見える形で伝えてください。

なぜこうなるの？

感覚過敏などのため急に触られると過敏に反応してパニックになりがちです。

初めての場所では「何をするか」のイメージが持ちにくく、不安が高まることもあります。具体的に何をするか見通しを持てると頑張れることがあります。

誰でも多かれ少なかれ持っている発達障害の特徴ですが、知的な能力には問題がないにもかかわらず、生活で困ることが多くある場合は相談してみましょう。

- ◎集中できる時間が短く、興味が転々としてしまう(ADHDなど)
- ◎衝動的に行動してしまう(ADHDなど)
- ◎読む、書く、計算などが部分的に苦手(学習障害)
- ◎予定通りに事が進まないと不安になり、混乱する(広汎性発達障害など)
- ◎気持ちを言葉で表現することが苦手(広汎性発達障害など)
- ◎音やにおい、皮膚の接触に敏感(広汎性発達障害など)
- ◎人とのコミュニケーションに苦手さがある(広汎性発達障害など)
- ◎興味や関心に偏りがある(広汎性発達障害など)

